

林業獣害対策モデル事業 誘引式くりわな(栗野方式)設置マニュアル

県西環境森林事務所

「林業獣害対策モデル事業」

目 的 とちぎ森林創生ビジョンにおいて、平成32年度の素材生産量を現在の1.5倍、600千m³/年まで増産することを目標に掲げている。その目標達成には、これまでの間伐による素材生産から、皆伐施業にシフトしていく必要がある。しかし、皆伐施業の促進には、植栽地における獣害の軽減が必須である。
林業関係者自らがシカの補獲に取り組む仕組みをつくることで、シカの補獲を促進し獣害の軽減を図るものである。

事業内容 林業関係者が加わる(仮称)林業獣害対策地域協議会を組織し、造林補助事業を活用して、皆伐地及びその周辺において、効率的・先進的な補獲及び防除を実施する。
なお、捕獲方法は、誘引式ワナによる補獲による。

平成28年度 林業獣害対策モデル事業において、鹿沼市内(旧栗野町)で実施した誘引式くりわなによるシカ捕獲が効果的に行えたことから、シカ害に悩む地域への参考事例とするため、マニュアルにまとめたものである。

【従来方式】

使用ワナ	オリモ式大物罠 OM-30型
設置法	樹木や岩陰等に1個設置。仕掛けたわなに足が入るように、枝等のハザードを付近に置いて、足場を限定する。
誘引法	誘引物は、塩、ヘイキューブ。わな付近に置いて、誘引して補獲する。
メリット	1箇所1つのわななので、コストが安い。
デメリット	わなにちょうど足が入るようにトラップを仕掛けたり、テクニカルに設置する必要があるのに、シカの習性等を熟知していないと効果的な設置は困難である。

【栗野方式】

使用ワナ	オリモ式大物罠 OM-30型
設置法	樹木や岩等の周囲に複数個(3～5個)設置。根付ワイヤー等が見えないようにすると、より効果的である。



「樹木の周囲を複数のわなで囲う」

誘引法	誘引物は、塩、ヘイキューブ。 シカ道からわなまで、塩を撒いて誘き寄せる。その際、わなに近づくにつれ、徐々に塩の撒く量を増やしていく。また、わな設置箇所には、多量の塩、ヘイキューブを置いて、食べに来たシカは逃さないようにする。シカ道からは、数メートル外れた箇所にわなを設置する。
-----	--



「シカ道からわなまで、塩の量を漸増させながら撒く」



「わなの設置箇所に、多量の塩、ヘイキューブを仕掛ける」

メリット	誘引されたシカが周囲を歩き回れば、何れかのわなに捕獲される仕組みなので、テクニックは必要ない。
デメリット	1箇所に複数のわな、また、塩、ヘイキューブを多量に使用するので、コストは高くなる。
その他	わなを設置する10日程前から塩、ヘイキューブを置くと、シカの警戒心を取り除け、より効果的である。